部署を超えた視点の共有や品質意識の統一にもつながりました。



＊訓練前の状況を教えてください。

当社では、ベテラン作業者の退職や世代交代に伴い、技術やノウハウの継承が課題となっていました。マニュアル整備やOJTによる指導を行っていましたが、経験や勘に頼る部分も多く、作業者の変更による製品不具合が発生することもありました。また、若手社員の増加を背景に、品質管理に対する意識や指導方法の標準化も必要と感じていました。そうした中、ポリテクセンターから本訓練の案内を受け、品質管理手法を体系的に学び、人材育成と品質管理体制の強化につなげたいと考え受講を決めました。

＊訓練を利用した感想、および受講者や職場の変化はありましたか。

訓練では、普段は接点の少ないさまざまな部門の社員が集まり、グループワークを通じて活発に意見交換を行いながら品質について考える貴重な機会となりました。特に、品質管理の基本的な考え方や手法を全員が同じ場で学ぶことで、品質に対する全社的な共通認識を形成できたことは大きな成果でした。部署を超えた視点の共有や品質意識の統一にもつながり、大変有意義な訓練でした。

また訓練で学んだ不具合解析の手法や「なぜなぜ分析」などを実際の業務に取り入れ、問題発生時には受講者を中心に原因分析や改善提案が活発に行われるようになりました。表面的な対処だけでなく、根本原因を追究しながら論理的に解決を図る意識が現場に定着しつつあり、再発防止や品質管理体制の強化につながっていると感じています。

受講者の声

製品の組立作業では技能やノウハウの継承が十分に行われず、品質不良が発生していたため、作業手順書の整備や見直しによる標準化が課題となっていました。本訓練を受講したことで、これまで曖昧だった品質管理の考え方や用語への理解が深まり、現場を正しく把握し、不良を未然に防ぐことの重要性を再認識しました。特に、なぜなぜ分析などの問題解決手法や、事実に基づいて原因を追究する考え方は実務に役立つ内容でした。また、演習では他部署の意見に触れることで新たな視点を得ることができました。

現在は QC 工程表や作業手順書の見直しの際に関係者の意見を積極的に取り入れ、リスクの洗い出しや対策の検討を進めています。今後も 4M の変化に注意を払いながら、不良をつくらない仕組みづくりを推進し、品質向上に取り組んでいきたいと考えています。

株式会社壬生電機製作所

事業内容

直流電源装置や蓄電池設備、各種電気機器の設計・製造

会社概要

京都市南区吉祥院仁木ノ森町５０
設立　１９５７年　従業員数　６４人

利用訓練コース

品質管理実践（令和８年５月）
新サービス・商品開発の基本プロセス（令和８年１０月）